
東日本大震災は社会活動に対する 意識と行動をどう変えたか？

2012年4月20日

NPO 法人二枚目の名刺

Research Project Team

【背景・目的】

2011年3月11日東日本大震災。その後、多くの人々が復旧・復興支援に携ってきた。寄付を行う。ボランティアで現地に赴く。勿論、普段の仕事の中で、震災対応にあたる人もたくさんいる。東日本大震災は、私たち日本人の「社会の一員である」という意識を高め、「社会のために何ができるか」を考え行動する人を増やしてきたと感じる。震災を契機として人々は、今、何を考え、どう行動しているのか？今回の調査では、震災前後の人々の意識の変化と実際の行動を探っていきたい。

【サマリー】

1. 回答者の74%の人が、震災をきっかけに社会活動への意識が高まった。
2. 震災後、回答者の85%が寄付を行い、53%がボランティアを実行。特にもともと社会活動に参加していた人たちが、率先して取り組んでいた。
3. 震災をきっかけに社会活動への意識が高まった人は、今後の社会活動への参加意欲が高い。もともと、回答者の約7割の人は、今後の震災関連、震災関連以外の活動について「機会があればしてみたい」に留まっている。何らかの社会活動に関わりたいと考え、「機会」を探している人が相当数いるといえる。
4. 震災時に何らかの行動を起こした人は、行動を起こしていない人と比べて、今後の社会活動への参加意向が高い。
5. 寄せられたコメントでは、震災後の復旧・復興に、悩みながら自分なりの関わり方を模索した、という意見が多くみられた。

本調査は、NPO 法人二枚目の名刺 (<http://nimaime.com/>) 「Research Project」として、足立沙織、大館拓平、樽井勝、辻浦博吉、廣優樹、皆川朋子、矢富健太郎が実施した。



【調査概要】

調査方法	NPO 法人二枚目の名刺による Twitter/Facebook 経由オンライン調査
調査対象	全国（ただし、社団法人・財団法人、NPO 法人等の有給スタッフからの回答は除いて集計）
調査期間	2012 年 2 月 23 日～3 月 16 日（23 日間）
有効回答数	344 （うち社団法人・財団法人、NPO 法人等の有給スタッフからの回答は 23）

【回答者の属性】

	学生	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	合計
女性	10	58	29	7	8	1	113
男性	22	76	77	21	11	1	208
合計	32	134	106	28	19	2	321

※本調査は必ずしも日本全体の姿を現していない可能性がある点にご留意ください。

NPO 法人二枚目の名刺 (<http://nimaime.com/>) は、社会人が 2 枚目の名刺を持つきっかけをつくり、2 枚目の名刺を持つ仲間を増やすことで、豊かで活力ある社会を実現します。

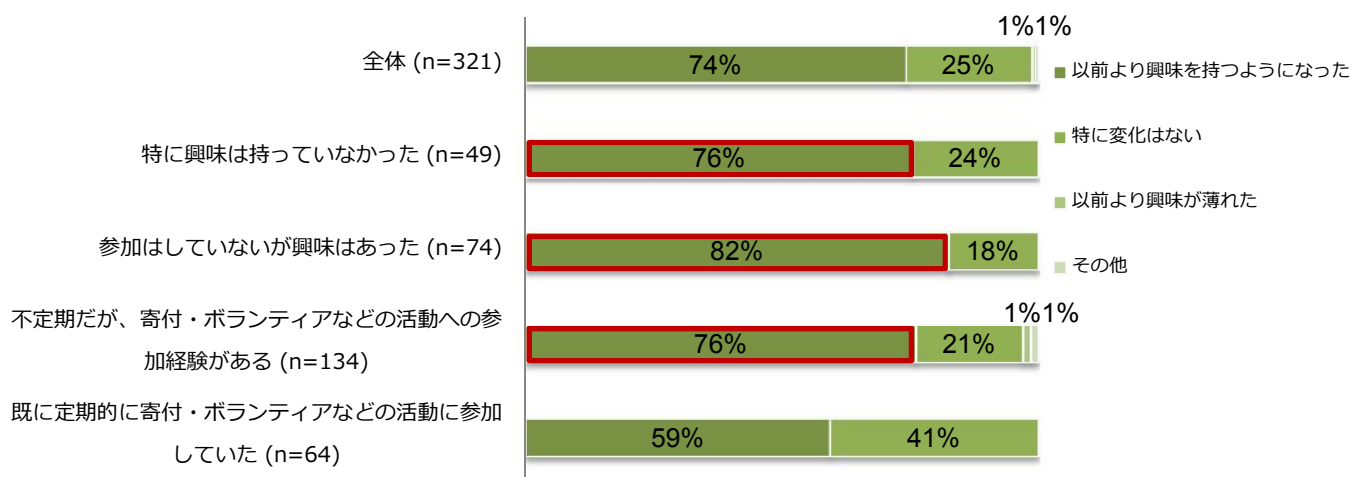


【調査結果】

1. 回答者の74%の人が、震災をきっかけに社会活動への意識が高まった。

震災をきっかけとした社会活動に関する意識の変化を聞いたところ、全体の74%が「以前より興味を持つようになった」と回答した。回答者の属性別に見ると、これまで寄付・ボランティアなどへの参加経験の無かった人は、参加経験のある人に比べて、社会活動に対する意識の高まりが顕著にみられる。また、学生は母集団全体と比較して意識の高まりが顕著にみられた。

Q.震災をきっかけに、社会活動に関する意識はどのように変わりましたか？



Q.震災をきっかけに、社会活動に関する意識はどのように変わりましたか？



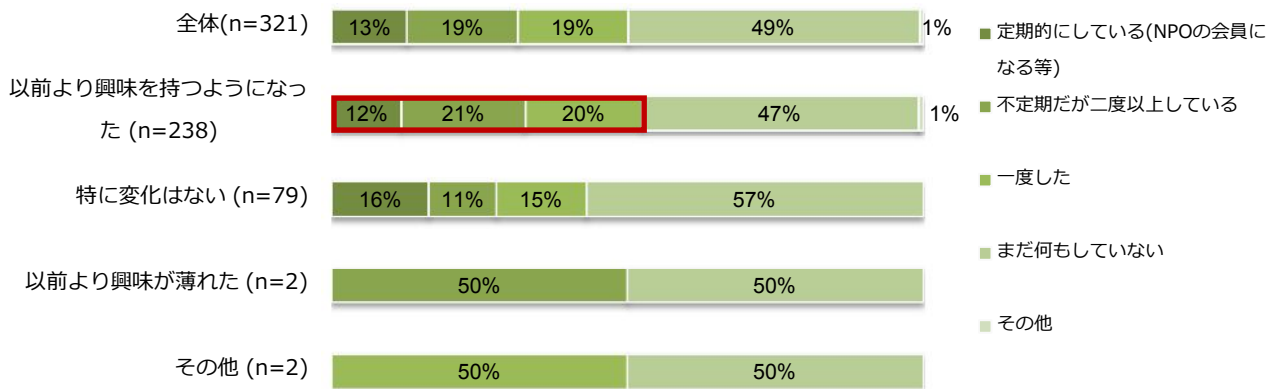
2. 震災後、回答者の85%が寄付を行い、53%がボランティアを実行。特にもともと社会活動に参加していた人たちが、率先して取り組んでいた。

「以前より興味をもつようになった」と回答した238名中、203名(85%)が寄付を実行、125名(53%)がボランティアを実行した。この回答状況からは2つのことが読み取れる。一つ目は、意識が高まったものの、実際の行動までには一定のハードルが存在すること、二つ目は、寄付よりもボランティアの方が実行のハードルが高いことである。

Q.東日本大震災に際して何か行動を起こしましたか？（寄付）



Q.東日本大震災に際して何か行動を起こしましたか？（ボランティア）

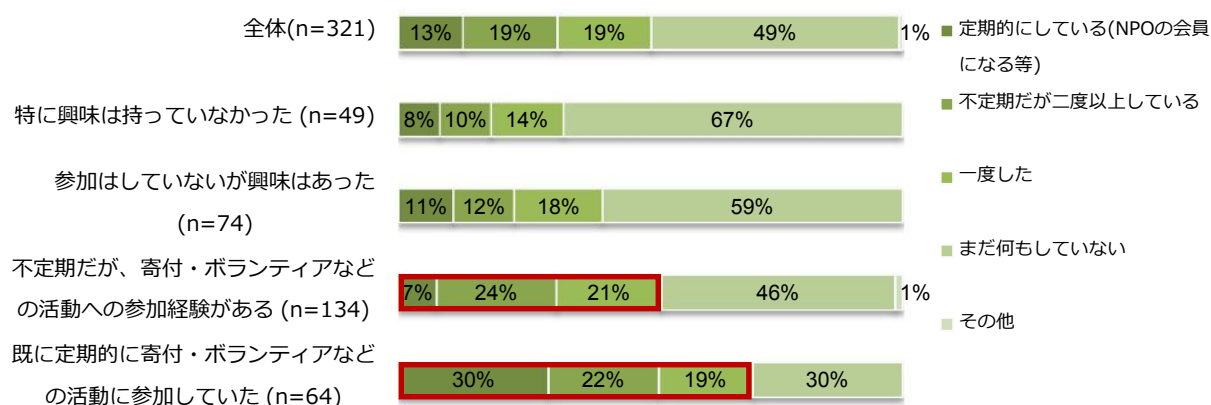


さらに、もともと社会活動に参加している人たちほど、率先して寄付やボランティアを行っていたことが明らかになった。寄付・ボランティアのいずれにおいても、もともと何らかの形で社会活動に参加していた人の方が、そうでない人に比べ、参加率が高かった。

Q.東日本大震災に際して何か行動を起こしましたか？（寄付）



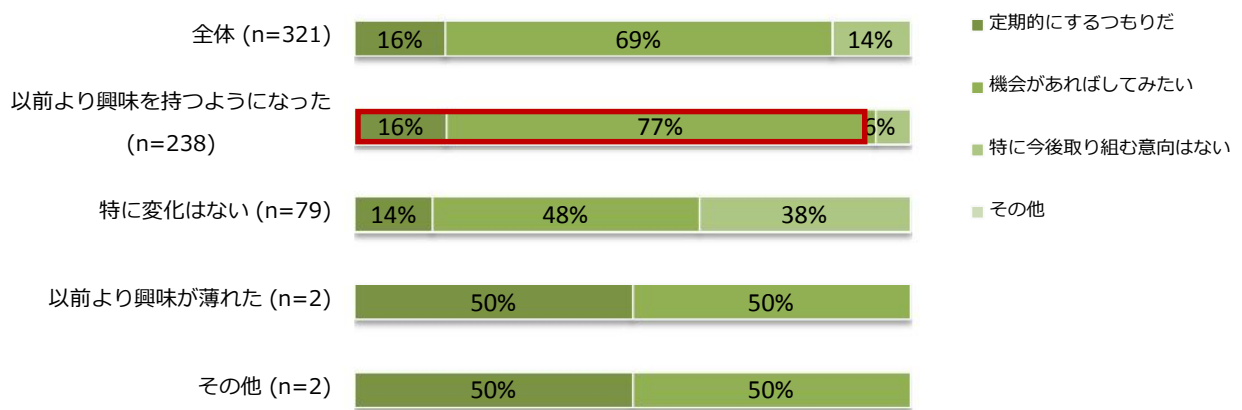
Q.東日本大震災に際して何か行動を起こしましたか？（ボランティア）



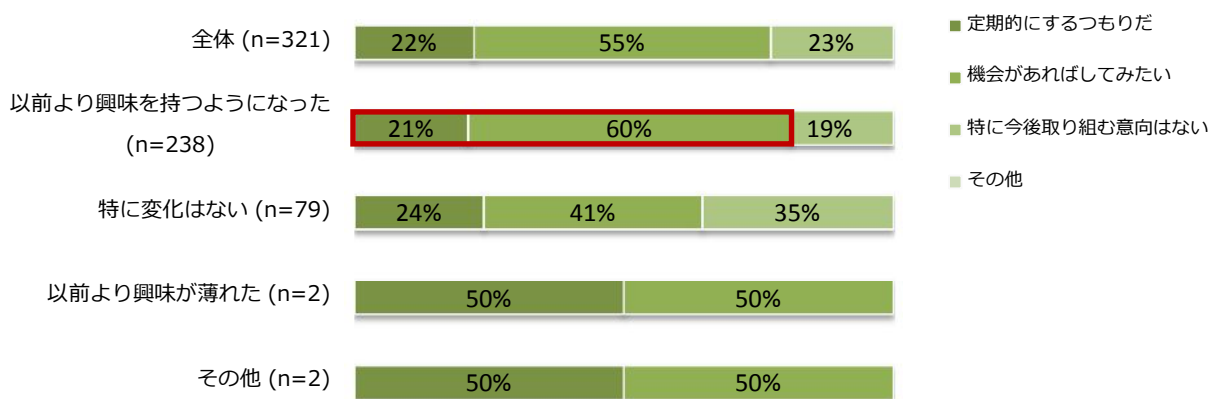
3. 震災をきっかけに「以前より興味をもつようになった」と回答した人は、今後の社会活動への参加意欲が高い。もともと、回答者の約7割の人は、今後の震災関連、震災関連以外の活動について「機会があればしてみたい」に留まっている。何らかの社会活動に関わりたいと考え、「機会」を探している人が相当数いるといえる。

震災をきっかけに「以前より興味をもつようになった」と回答した人は、今後の社会活動への取組みについて、約8～9割が「定期的にするつもりだ」「機会があればしてみたい」と前向きな姿勢を見せている。ただし、「機会があればしてみたい」が大半を占めており、必ずしも継続的なアクションにはつながっていないといえる。

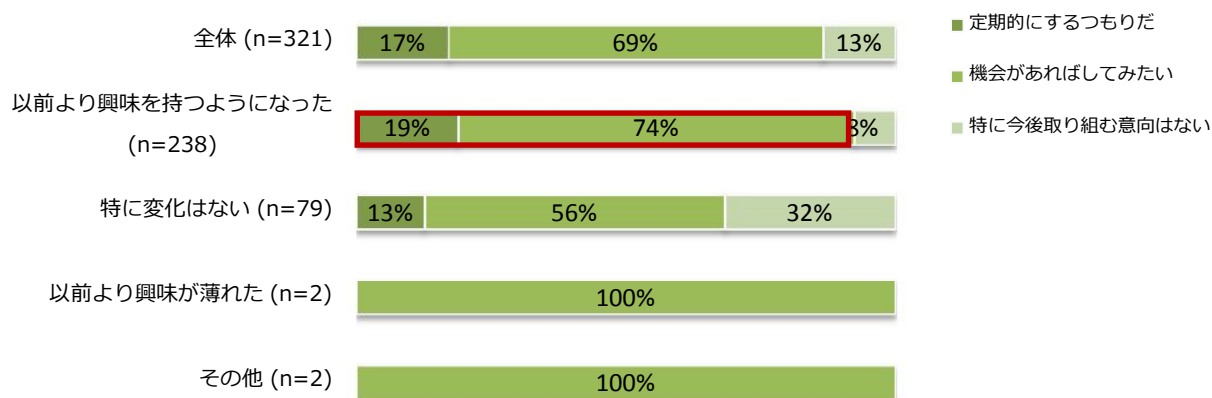
Q.今後の社会活動に関する取組み方について教えてください（震災関連団体への寄付）



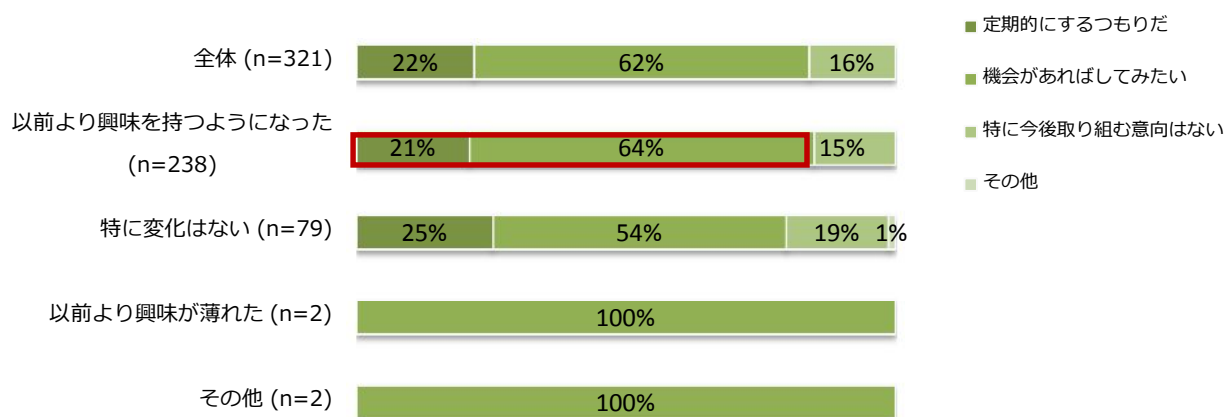
Q.今後の社会活動に関する取組み方について教えてください（震災関連団体へのボランティア）



Q.今後の社会活動に関する取り組み方について教えてください（震災関連以外の団体への寄付）



Q.今後の社会活動に関する取り組み方について教えてください（震災関連以外の団体へのボランティア）



震災をきっかけに社会活動への意識を高め、寄付またはボランティアに実際に取り組んだ 214 人に限定した場合でも、結果は変わらず約 6~8 割が、今後の寄付やボランティアについては「機会があればしてみたい」に留まっている。こういった回答者は適当な機会がない限り実際のアクションにはつながらなかったり、主体的な社会活動への参加となっていない状況と思われる。何らかの社会活動に関わりたいと考え、「機会」を探している人が相当数いるといえる。

Q.今後の社会活動に関する取組み方について教えてください

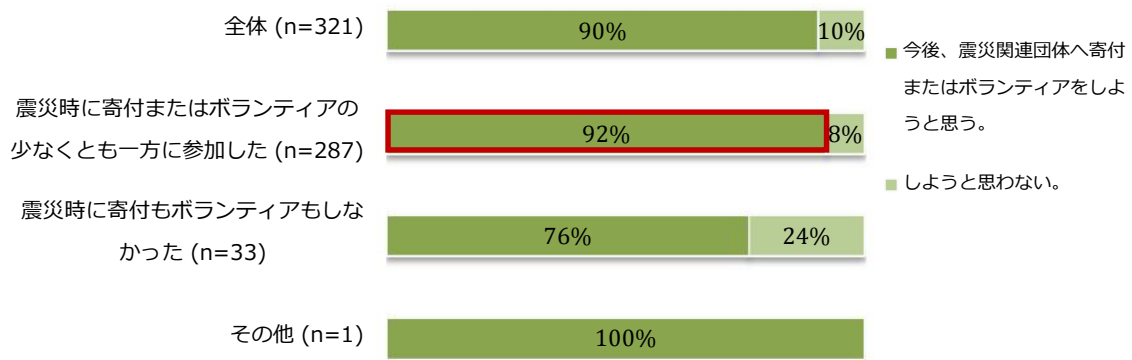
(分析対象：震災をきっかけに意識が高まり、寄付またはボランティアをした 214 名)



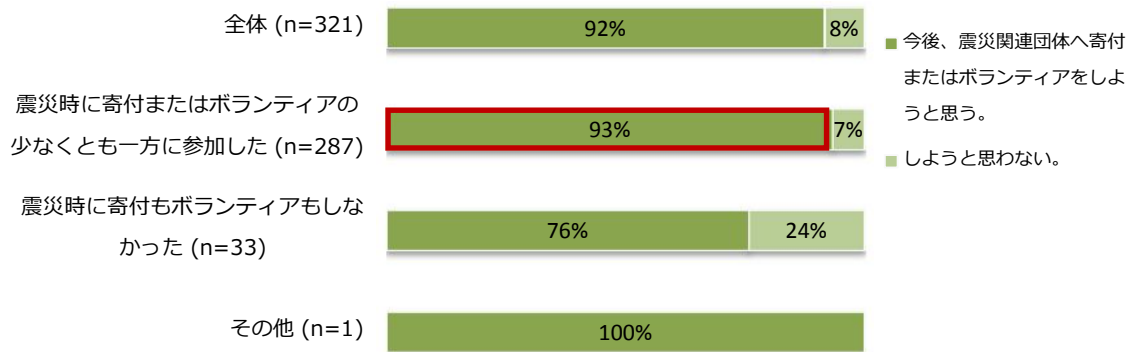
4. 震災時に何らかの行動を起こした人は、行動を起こしていない人と比べて、今後の社会活動への参加意向が高い。

震災時に何らかの行動を起こした人は、行動を起こしていない人と比べて、今後の寄付やボランティアでの社会活動への活動意向が高い。また、行動を起こした人は、震災関連／震災関連以外いずれの活動へも同様に高い関心を示している。

Q.今後の社会活動に関する取組み方について教えてください（震災関連団体）



Q.今後の社会活動に関する取組み方について教えてください（震災関連以外の団体）



5. 寄せられたコメント

今回のアンケートでは、多くの方々から、コメントを頂いた。そこには、選択式のアンケートでは表現しきれない、悩みながら震災後の復旧・復興に自分なりの関わり方を模索した姿があった。

「狭い日本の中でご近所さんが大変なことになっている。どう支えあっていけばいいのか。どう自分ごとにすればいいのか」という40代女性のコメント。「ご縁があったものに関わりながら、自分なりにこの問題と格闘している」という。

一方で、既に定期的に特定のボランティアに関わっている40代男性は、「交通事故や病気で親を亡くした子どもたち、難病で闘病中の方の支援をしています。いろいろな形で苦しんでいるだろう人々が東北にいる。でも同時に目の前にいる。東北でのボランティア活動は何度も考えたけれど、複雑な気持ちではあったが、私は行かないことに決めました」という。ボランティアに踏み出さなかった人々の中には、被災地への支援がクローズアップされる中で、自分のまわりでできること、やるべきこととの間で悩んだ姿も浮かび上がってくる。

あえて寄付、ボランティアという選択をとらなかった、という声も寄せられた。寄付はしなかったという30代男性は、「金銭を媒介としない協力行動で、大きな価値を生み出す。そんな活動への協力は惜しみなくしたいと思っている」という。また、別の30代男性からは、「I have few interests in donations, but I am willing to make my best effort to restore Japan through my work. Making donations or volunteer works are not always the best ways for resurrection of the devastated sites. (寄付にはあまり関心がないが、日本の復旧には仕事を通じて最大限の努力をしていきたい。寄付やボランティアは、被災地の復興にあたって、いつもベストな手段であるわけではない)」と自身のポリシーをシェアしてくれた。

寄付をする。ボランティアを行う。震災後の行動は単純化されて報道されることも多い。ただ、実際の人々の行動はそれほど単純ではなかったはずだ。世の中で分りやすい形での参加



だけでなく、自分に合った、自分なりの社会とのかかわり方を選択する。そんな動きが出てきている。

二枚目の名刺の趣旨に賛同頂いた 40 代男性からは、「今、最も気付き、動くべきはサラリーマンだと思う。しかし、無理することがよいわけではない。まずは、無理なく、できることを一つでも、継続的に行っていくこと。それができれば、大人が変わる、社会が変わる、日本が変わる」というメッセージを頂いた。

最後に 20 代女性の声を紹介したい。「社会貢献を社会貢献と思って取り組む方がいいのか、思わずに取り組む方がいいのか、よくわからない。でも、誰かのためになることをできるのは、その誰かと、やる人自身を幸せにしてくれる。そう信じたいと思います」。

日本人の社会への向き合い方は、大きく変わっているはずだ。

NPO 法人二枚目の名刺 (<http://nimaim.com/>) は、社会人が 2 枚目の名刺を持つきっかけをつくり、2 枚目の名刺を持つ仲間を増やすことで、豊かで活力ある社会を実現します。

